

日本福祉大学付属高校との連携 学生が講師！

高校生に学生の調査活動を知ってもらおう

今回のプロジェクトでは現代GPプロジェクトを通じて、調査活動の目的は何なのか、など調査活動を身近に感じてもらえるよう、日本福祉大学付属高校の「総合的な学習の時間」を利用して、学生が講師となり、高校生に講義を10月4日に行います。

現在、「総合的な学習の時間」を企画・コーディネートする石崎先生に、高校生が行っている調査研究等の活動をはじめ、高校生はどのようなことに興味をもっているのか、などを伺いました。



学生の等身大の言葉に期待

日本福祉大学付属高等学校 教諭 石崎 撰

2003年の新カリキュラム施行に合わせて「総合的な学習の時間」（以下、「総合」）を付属高校で導入してから、本年で4年目となります。その間、小学校から「総合」の経験がある生徒が増えてきました。生徒達が、「総合」における活動の流れ（テーマ別調査活動とレポート・プレゼンテーション）をあたり



まえとしているからこそ、高校の「総合」では、高校生の認識レベルに応じた活動の到達点をそれぞれ設定していかなければなりません。

付属高校の1学年の「総合」は、知多半島をフィールドにした

地域研究活動がその主たる活動です。教員が設定したテーマごとにクラスを編成して、活動を実施しています。担当する教員で調査活動の方法やそのまとめ方についての指導法について開発・検討を繰り返しながら、「総合」に取り組んでいます。

そこで、調査活動とは何か、資料探しのポイントやフィールドワークの注意点、レポートをまとめる時のポイント等について具体的に話してもらう活動を企画しました。この具体的に語るという役割を現代GPにかかわった学生にお願いしたいというのがその意図です。失敗例も含めて語ってもらいたいと考えています。その姿が、高校生にとってプレゼンテーションの手本となります。年齢の近い大学生による等身大の言葉が、高校生の活動の質を転換することにつながると期待しています。



▲ハンセン病患者の手のひらに「パラフィン」を入れて、手の後遺症を隠しているのを実際に触れている

お知らせ

文部科学省

「平成18年度 特色ある大学教育支援プログラム（現代GP・特色GP）
日本福祉大学プログラムの採択について」

●新ふくしキャリア時代を生きる人材の養成

福祉の総合的大学としての本学の教育資源を活用して、広範囲な仕事の広がりに対応したキャリア教育体系を構築し、「新ふくしキャリア教育」として福祉ビジネス企業をはじめ、様々な職場で福祉をテーマにした事業の展開と創造を進める人材の育成を行うことを目的としています。（現代GP）

●知タウンシップによる教育イノベーション

～公私協力による生涯学習事業と連携した実践的学部教育～

「世代共生」「地域競創」をテーマに公私協力によって開設（1995年）した半田キャンパス（情報社会科学部）が実践する情報教育と地域の生涯学習教育拠点として設置された日本福祉大学生涯学習センターとの融合型事業です。本取組みは、学生が、地域の人たちと一緒に学び、働くことによって双方が「学ぶ」「教える」を循環させ、「成果」「課題」のフィードバックすることを目的としています。（特色GP）